

ちょっと ブレイク しませんか?



第 39 回

「オスカーとルシнда」(1997年米国)
「のるかそるか」(1989年米国)

ギャンブル

賭博をめぐるシネマ作品

イソップ寓話に「兎と狐」と題する小話がある。

兎が狐に向かって「君は『儲け屋』と呼ばれているけど、本当にかっぼり儲けているのかね」と訊くと、狐は答えて、「嘘だと思ふなら、家に来てごらん。一席設けるよ」と言った。そこで兎はついていったが、中には狐の食事になるものは当の兎しかいなかった。そこで兎が言うには「授業料が高かついたが、お前の名の由来が分かった。『儲ける』からではなく『欺く』から来ているのだ」

「オスカーとルシнда」(1997年 米国)

オーストラリア

時はヴィクトリア朝。オスカーは厳格な説教師の父の元で育った。ルシндаは濠太刺利の片田舎で生まれ硝子に魅了され硝子工場を買い取った。伝道師として濠太刺利に赴いたオスカーは帰国の途につくルシндаと船の中で偶然互いの賭博好きを認め相愛の仲になる。しかしオスカーはルシंदが硝子工場の共同経営者のハセット牧師の方を愛していると邪推していた。オスカーは自分の信仰心とルシंदの硝子への思いの完全な結合というべき「硝子の教会」を作りハセットの赴任地に運ぼうとルシंदへの愛を証明する生涯最大の賭けを目論む。ルシंदはオスカーの身を案じながらも、冒険の成功を巡ってお互いの全財産を賭けることを提案した。苦難の末、オスカーは教会をハセットの住む僻地のベンジェリンまで運ぶが、ここで思わぬ事態が。教会は突然重みで浸水しオスカーを閉じ込めたまま水中に沈んだ。葬儀に駆けつけたルシंदは悲しみに暮れる。

「のるかそるか」(1989年米国映画)

オスカー俳優リチャード・ドレイファスが主人公の涙ぐましい面白可笑しい競馬ファンにはたまらない作品だ。競馬好きの夫は妻に競馬を慎むと誓う一方で、競馬場の高級サロンに入れる幸運を神に祈る。大穴を当て大金を手に入れネクタイを締めジョッキークラブを訪れる。妻は賭博に興じる夫に嫌気をさして離婚を持ち出す。ある日夫が競馬場で借金や首輪代等を差し引いた手持ち全てを賭ける。そこに妻が現れ、夫はあっさり「全額賭けた」と伝えると妻は「たかが金よ」と答える。レースの結果は主人公の買った馬が1着で大騒ぎとなった。夫はその歓声の中、大金よりも価値あるものを手に入れたことを実感するのだった。

昨今、カジノ特区構想が提案されている。賭博は負ければ取り返そう、勝てば更に勝とうと嵌ったら抜けられない魔力を持つ。公営賭博も赤字に転じると廃止される。絶対に損しないのは胴元だけだ。その胴元が国家か否かで合法かどうかが決めるのだが、一獲千金を誘うギャンブル自体が有害無益だ。賭博は人心を荒廃させギャンブル依存症と自己破産者を増やし治安も悪化させるからだ。賭博映画では「スティング」、「マーベリック」、「カジノ」などの名作もある。賭博の怖さを教える「オスカーとルシнда」、競馬の面白さを説く「のるかそるか」、貴方ならどちらを先に選びますか。それは兎も角、マカオを真似て富裕層からお金を巻き上げる算段は果たして賢明だろうか。ちなみに狐の別名の元となるケルドスという言葉には「儲け」「悪賢さ」の意味があるという。宝籤で夢を買うくらいが許容範囲かも知れない。



かゆ かわ ゆう へい

粥川 裕平

(精神科医・映画評論家)

名古屋工業大学 名誉教授
かゆかわクリニック院長